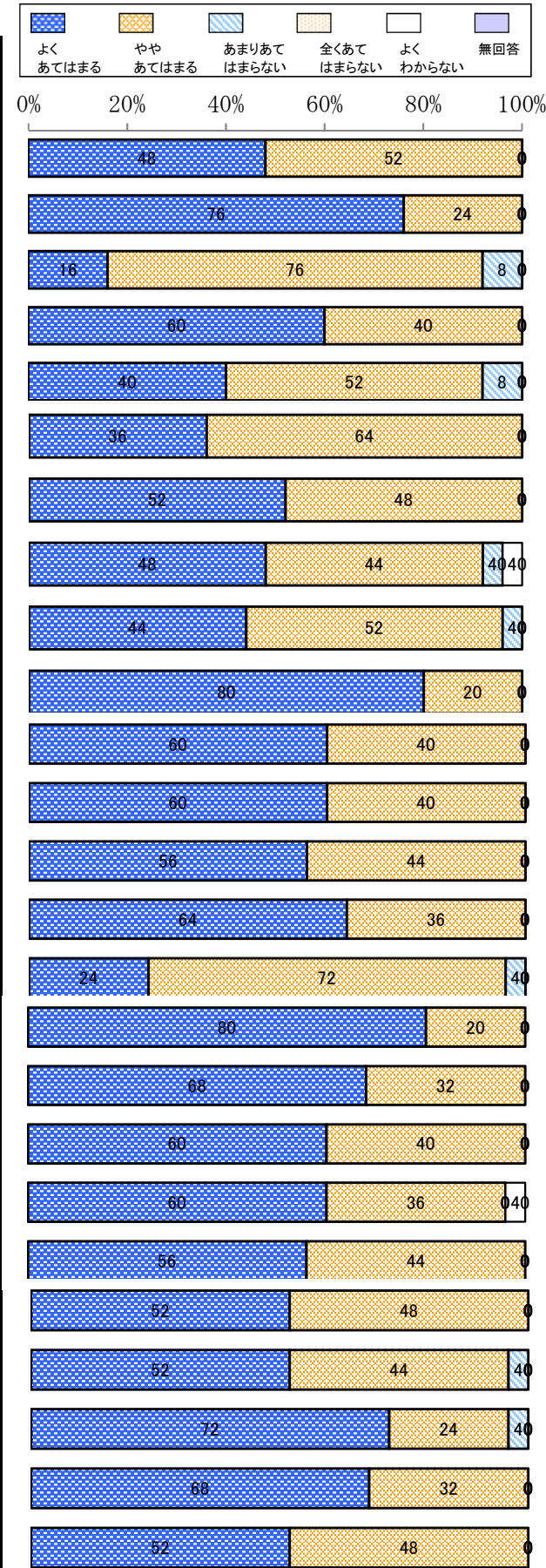


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分らない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	60	32	6	0	3	0
	2	児童・生徒の様子	72	21	5	1	1	0
	3	基本的な生活習慣	57	34	7	1	1	0
	4	児童・生徒理解	42	44	10	2	2	0
	5	健康・安全・安心	70	22	5	2	2	0
学力向上の取組	6	分かる授業	62	27	6	2	2	0
	7	個に応じた指導	61	31	6	1	2	0
	8	学習習慣	61	24	11	3	2	0
	9	情報教育	70	23	4	1	1	0
	10	学校図書館の活用	53	33	8	3	3	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	72	22	3	1	2	0
	12	道徳教育	53	33	9	2	3	0
	13	教育相談	52	26	12	6	4	0
	14	人間関係づくり	80	16	3	0	1	0
	15	自治的な活動	64	28	5	1	2	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	64	22	7	1	6	0
	17	相談への対応	61	27	7	2	2	0
	18	学校への参加	61	22	11	4	3	0
	19	地域との連携	41	32	19	6	2	0
	20	意見の反映	61	26	7	1	6	0
各学校の特色ある教育	21	地域と連携した教育活動	51	34	9	2	3	0
	22	多様な交流活動	58	27	8	2	4	0
	23	特色ある教育活動	68	20	5	2	6	0
	24	読書活動	48	29	15	6	2	0
	25	防災教育	72	23	3	1	2	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

1 調査概要
 (1) 調査期間
 令和4年11月14日～令和4年12月9日
 (2) 回答率
 ①児童 98.1% (427人/対象435人)
 ②保護者 71.6% (308人/対象435人)
 ※保護者には児童数で依頼
 ③教員 100% (25人/25人)
 (3) 項目について
 ①調査対象は、集計上のフォーマットで児童、保護者等、教職員となっているが、実質的には保護者等は保護者のみ、教職員は教員のみである。
 ②25の設問のうち、1から20が区として共通のもの、21から25が学校独自のものである。

2 全体的な考察
 ・今年度から保護者への調査を家庭数から児童数へと変更した。また、回答の呼びかけを複数回働きかけた。その結果、昨年度より回答率が伸び、70%を上回った。
 ・児童、保護者の回答において「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合が5ポイント以上伸びた項目が、児童で12項目。保護者では6項目あった。出来る範囲で工夫し、学校行事を充実させたり、日々の学習活動の中で丁寧に対応、指導したりすることを全教職員で行ったことが結果に表れたと考える。

3 特徴的な設問に関する考察
 (1) 【設問5 健康・安全・安心】
 [児童・生徒の健康や安全(確保・対策)に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。]
 児童、保護者ともに「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が90%を超えている。防災教育は委員会活動としても取り組んでいる。また、学校全体でも月ごとの避難訓練や安全指導を行っている。今後はこういった活動について保護者ともより連携を取り、更に充実した活動としていく。

(2) 【設問10 学校図書館の活用】
 [読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。]
 授業だけでなく、学校図書館の利活用の様々な取組を行っている。そのことから、児童の評価は高い。しかし、保護者において「あてはまらない」「よくわからない」と回答した割合が20%となっている。今後、家庭と連携した読書活動を更に推進していく。また、ICT活用も学校図書館の活用に位置づけられることについて広報するなど、保護者に日々の活動について理解を深めてもらう。

(3) 【設問14 人間関係づくり】
 児童、保護者の双方が「よくあてはまる」と回答した割合が非常に高い。学校行事をはじめとする体験活動等を通じた人間関係づくりへの満足度が高いことが分かる。今後も教育活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいく。

(4) 【設問22 多様な交流活動】
 コロナ禍で今年度も、活動を制限することもあった。その中でも工夫しながら活動を行ってきた。来年度は特別支援学級の児童との交流も含め異学年交流や100周年に向けて地域の方との交流も行えるよう計画を立て、進めていきたい。